

科目名		舞台実習Ⅱ							年度	2025	
英語科目名		Stage Practice Ⅱ							学期	後期	
学科・学年		声優・演劇科 2年次		必／選	選	時間数	70	単位数	2	種別※	実習+実技
担当教員		磯村純、千田恵子、須藤黄英			教員の実務経験			実務経験の職種			
【科目の目的】											
舞台空間を設定、戯曲の世界観を個人やグループで演劇戯曲を立体化する。都度、発声力、歌唱力をチェックしながら、作品理解、人物理解が学生一人ひとりになされているか確認し戯曲を完成させていく。舞台実習Ⅳと連動し、観客に見せるための舞台を2年間の集大成として「卒業制作」に繋げ、演劇作品もしくはミュージカルを創り上げていくこと。											
【科目の概要】											
舞台演技の表現能力の向上を図り、集団で舞台芸術作品を制作するプロセスを実践的に学びます。											
【到達目標】											
学生が舞台空間で生き抜くことの難しさを実感し、実践することで俳優業を理解することが目標である。役者として活動をするために必要な努力を模索し、更に、発声力、歌唱力、身体表現力をより発展させ、よりクオリティの高いものを目指しながら、今後の進路、役者としての仕事を深く考察できる力を養うことも目標に加える。											
【授業の注意点】											
学生の心身が健全、健康であることを何より優先する。学生とのコミュニケーションを重視し、明るく、清しい授業空間を作ることが肝要である。また、快活で積極的な授業参加を求めるため理由のない遅刻や欠席は認めない。態度が改善されない場合、配役の変更や降をすることもある。授業時数の4分の3を出席しない者は定期試験を受けることができない。											
評価基準＝ルーブリック											
ルーブリック 評価	レベル5	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1						
	優れている	よい	ふつう	あと少し	要努力						
到達目標 A	腹式呼吸を完全に習得し、明瞭で感情豊かな発声ができる。	腹式呼吸を使いこなし、安定した声量と適度な抑揚が出せる。	腹式呼吸の基礎を理解し、一定の声量と明瞭さを維持できる。	腹式呼吸を意識するが、不安定で声量や明瞭さに課題が残る。	腹式呼吸が身についておらず、声量や明瞭さが不足している。						
到達目標 B	正確な音程と豊かな表現力で感情を伝える歌唱ができる。	音程が安定し、適切な抑揚で魅力的な歌唱ができる。	音程を概ね正しく保ちながら、一定の表現力で歌える。	音程やリズムにばらつきがあり、表現力が十分でない。	音程が不安定で、リズムや表現力に大きな改善が必要。						
到達目標 C	柔軟で洗練された動きで、感情や状況を的確に表現できる。	安定した身体コントロールで、感情や状況を表現できる。	基本的な動きができ、感情や状況をある程度表現できる。	動きにぎこちなさがあり、感情や状況の表現が不十分。	身体の動きが不安定で、表現力を高める基礎練習が必要。						
到達目標 D	深い役解釈と独自の工夫で、説得力のある演技ができる。	役の背景を理解し、安定した演技でキャラクターを表現できる。	役の基本的な設定を理解し、自然な演技で表現できる。	役の理解が浅く、演技に説得力や一貫性が欠けている。	役の解釈が不十分で、演技に取り組む姿勢の改善が必要。						
到達目標 E	遅刻・欠席をしない	遅刻はあるが欠席は少ない	遅刻・欠席が少ない	遅刻・欠席が多い	遅刻・欠席が非常に多い						
【教科書】											

レジュメ・資料は必要に応じて配布。パソコン・タブレット・スマートフォンなどのモバイルツール、参考資料等は授業内で指示する。

【参考資料】

【成績の評価方法・評価基準】

小テストおよび期末テストにより採点。授業への積極性と参加態度を評価する。

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名		舞台実習Ⅱ			年度	2025					
英語表記		Stage Practice Ⅱ			学期	後期					
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容		到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価				
1	西洋古典 戯曲分析と読み合わせ	西洋古典に触れる		戯曲分析	戯曲の背景、成立の仕方、構成、意図の理解						
				読み合わせ	文体、ボキャブラリーの確認						
2	西洋古典 戯曲分析と読み合わせ	新たな文体の読み合わせ		戯曲分析	戯曲の構成、意図の理解						
				読み合わせ	話法（①抑揚②間③アクセント）の検証						
3	西洋古典 戯曲分析と読み合わせ	新たな文体の読み合わせ		戯曲分析	話法（①・②・③）の構成における検証						
				読み合わせ	状況設定の想像と情緒的獲得、語感、リズム、テンポの検証						
4	演技実習 西洋古典	立ち稽古		立ち稽古	位置、動線、情緒の交流他、いろいろな方法、構築を学ぶ						
5	演技実習 西洋古典	立ち稽古		立ち稽古	位置、動線、客席との関係など演技の多様性についても考える						
6	現代戯曲との邂逅	現代戯曲を読む		戯曲分析	異なる作品－異なるドラマツルギーに触れ、構成や演劇の多様性を学び、それを体現する俳優の演技を考える。3講義で3作品以上の台本（抜粋）を使う。						
				読み合わせ							
7	現代戯曲との邂逅	現代戯曲を読む		戯曲分析		異なる作品－異なるドラマツルギーに触れ、構成や演劇の多様性を学び、それを体現する俳優の演技を考える。3講義で3作品以上の台本（抜粋）を使う。					
				読み合わせ							
8	現代戯曲との邂逅	現代戯曲を読む		戯曲分析			異なる作品－異なるドラマツルギーに触れ、構成や演劇の多様性を学び、それを体現する俳優の演技を考える。3講義で3作品以上の台本（抜粋）を使う。				
				読み合わせ							
9	演技実習 現代戯曲	立ち稽古		構成				前講義で用いた台本の中から学生が選択したものを発表につなげる。構成等、学生の作成にまかせる。			
				稽古							
				グループの作成							
10	演技実習 現代戯曲	立ち稽古 発表		構成					前講義で用いた台本の中から学生が選択したものを発表につなげる。構成等、学生の作成にまかせる。		
				稽古							
				グループの作成							
11											

12						
13						
14						
15						
評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他						
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった						
備考 等						